



2020年3月期 第3四半期 決算短信補足資料

2020年2月5日
日本水産株式会社

その他事業の影響が大きく減収。利益は南米鮭鱒養殖事業が大幅増益も、その他事業やチルド事業に加え、国内漁業・養殖の苦戦をカバーしきれず純利益は微減。

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	対前年同期比		2020年3月期 年間計画	進捗率 (%)
			増減	(%)		
売上高	5,432 億円	5,268 億円	▲164 億円	97.0	7,000 億円	75.3
営業利益	198 億円	190 億円	▲8 億円	95.8	240 億円	79.5
経常利益	228 億円	216 億円	▲11 億円	94.7	265 億円	81.6
四半期 純利益	152 億円	147 億円	▲4 億円	96.8	175 億円	84.5

※2019年2月よりチルド事業の取引形態をセンターフィー（販売費）と売上高を相殺する価格決定方式に変更しており、前第3四半期累計期間の売上高にはセンターフィー約73億円が含まれている。

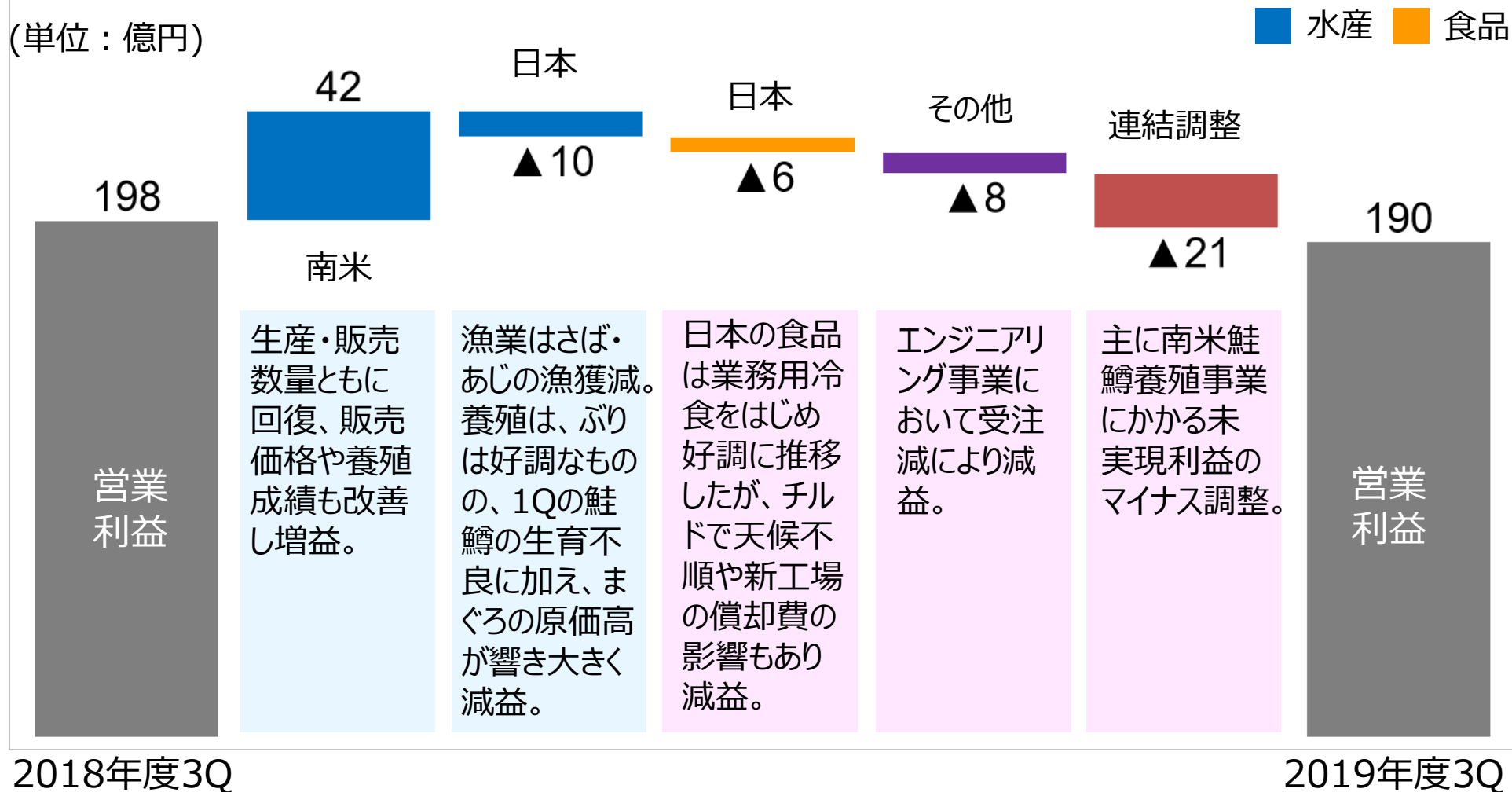
その他事業の減収に加え、水産は為替、食品はチルド事業の取引形態変更の影響（約73億円）が大きく3%の減収。

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	5,432	5,268	▲164	97.0
水産事業	2,266	2,245	▲21	99.1
食品事業	2,582	2,560	▲22	99.1
ファインケミカル事業	195	201	5	103.0
物流事業	128	127	▲0	99.6
その他	258	132	▲126	51.3
営業利益	198	190	▲8	95.8
水産事業	97	104	6	107.2
食品事業	103	98	▲5	95.1
ファインケミカル事業	19	19	0	100.0
物流事業	16	15	▲0	95.7
その他	8	1	▲7	11.8
全社経費	▲46	▲48	▲1	104.0
経常利益	228	216	▲11	94.7
親会社株主に帰属する四半期純利益	152	147	▲4	96.8

主な営業利益増減要因



南米鮭鱒養殖事業は一昨年の稚魚斃死の影響もなくなり大幅増益も、その他（エンジニアリング）事業に加え、チルド事業、国内漁業・養殖が苦戦。



生産・販売数量ともに回復、販売価格や養殖成績も改善し増益。

漁業はさば・あじの漁獲減。養殖は、ぶりは好調なもの、1Qの鮭鱒の生育不良に加え、まぐろの原価高が響き大きく減益。

日本の食品は業務用冷食をはじめ好調に推移したが、チルドで天候不順や新工場の償却費の影響もあり減益。

エンジニアリング事業において受注減により減益。

主に南米鮭鱒養殖事業にかかる未実現利益のマイナス調整。

売掛債権、在庫が増加

() 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

流動資産 2,613 (+137)

現金及び預金	76 (▲12)
受取手形及び売掛金	996 (+108)
棚卸資産(在庫)	1,381 (+94)

固定資産 2,393 (+90)

有形固定資産	1,441 (+66)
無形固定資産	105 (▲1)
投資その他の資産	846 (+25)

総資産 5,006 (+227)

流動負債 2,149 (+122)

支払手形及び買掛金	423 (▲70)
短期借入金	1,279 (+239)
その他	117 (▲21)

固定負債 1,117 (+27)

長期借入金	884 (+15)
-------	-----------

純資産 1,739 (+77)

自己資本	1,547 (+84)
------	-------------

自己資本比率

'19/3 30.6% ⇒ '19/12 30.9%

運転資本が増加し営業CFは若干マイナス

(単位：億円)

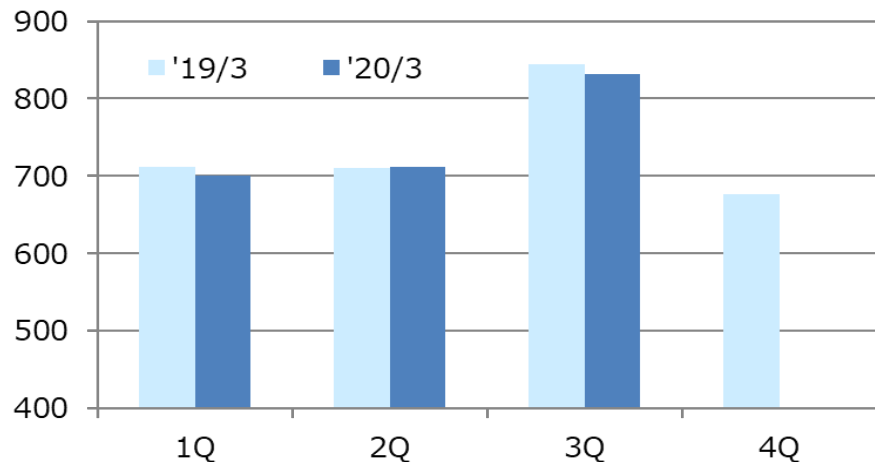
(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	増減
・税金等調整前四半期純利益	230	213	▲ 16
・減価償却費 (のれん償却含む)	135	143	8
・運転資本	▲ 213	▲ 286	▲ 73
・法人税等の支払額	▲ 70	▲ 47	22
・その他	▲ 62	▲ 71	▲ 9
営業活動によるCF	19	▲ 49	▲ 68
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 154	▲ 201	▲ 46
・その他	41	▲ 1	▲ 42
投資活動によるCF	▲ 113	▲ 202	▲ 89
・短期借入金の増減額	149	229	80
・長期借入金の増減額	▲ 39	31	71
・その他	▲ 34	▲ 40	▲ 5
財務活動によるCF	74	220	145
現金及び現金同等物の期末残高	223	130	

欧州の為替と取扱数量減が響き減収。南米の鮭鱒養殖事業が大幅増益も国内漁業・養殖が苦戦し若干の増益に留まった。

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	2,266	2,245	▲21	99.1
営業利益	97	104	6	107.2

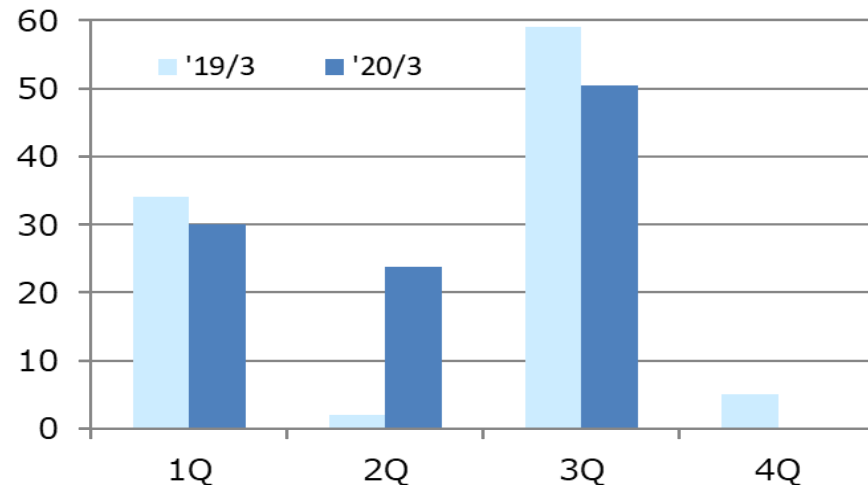
売上高 (四半期別)

(単位：億円)



営業利益 (四半期別)

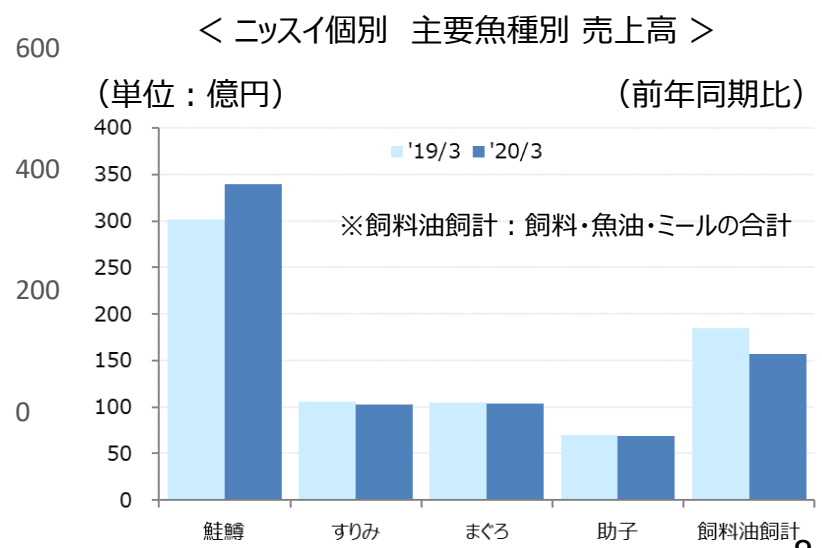
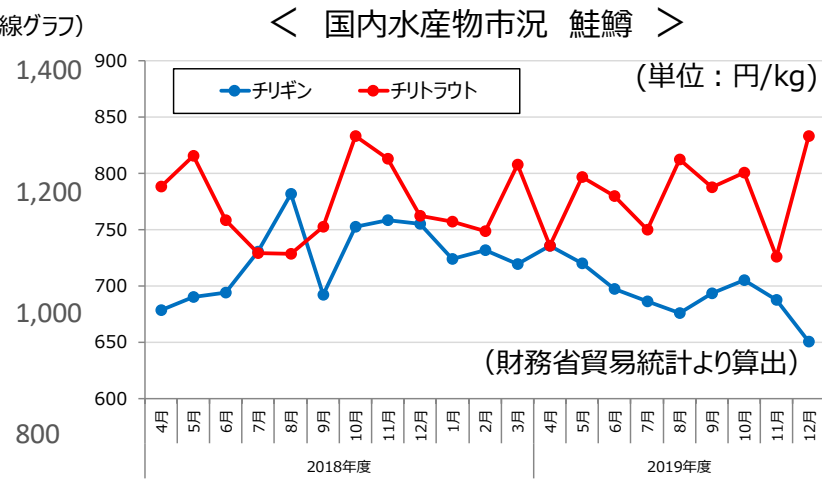
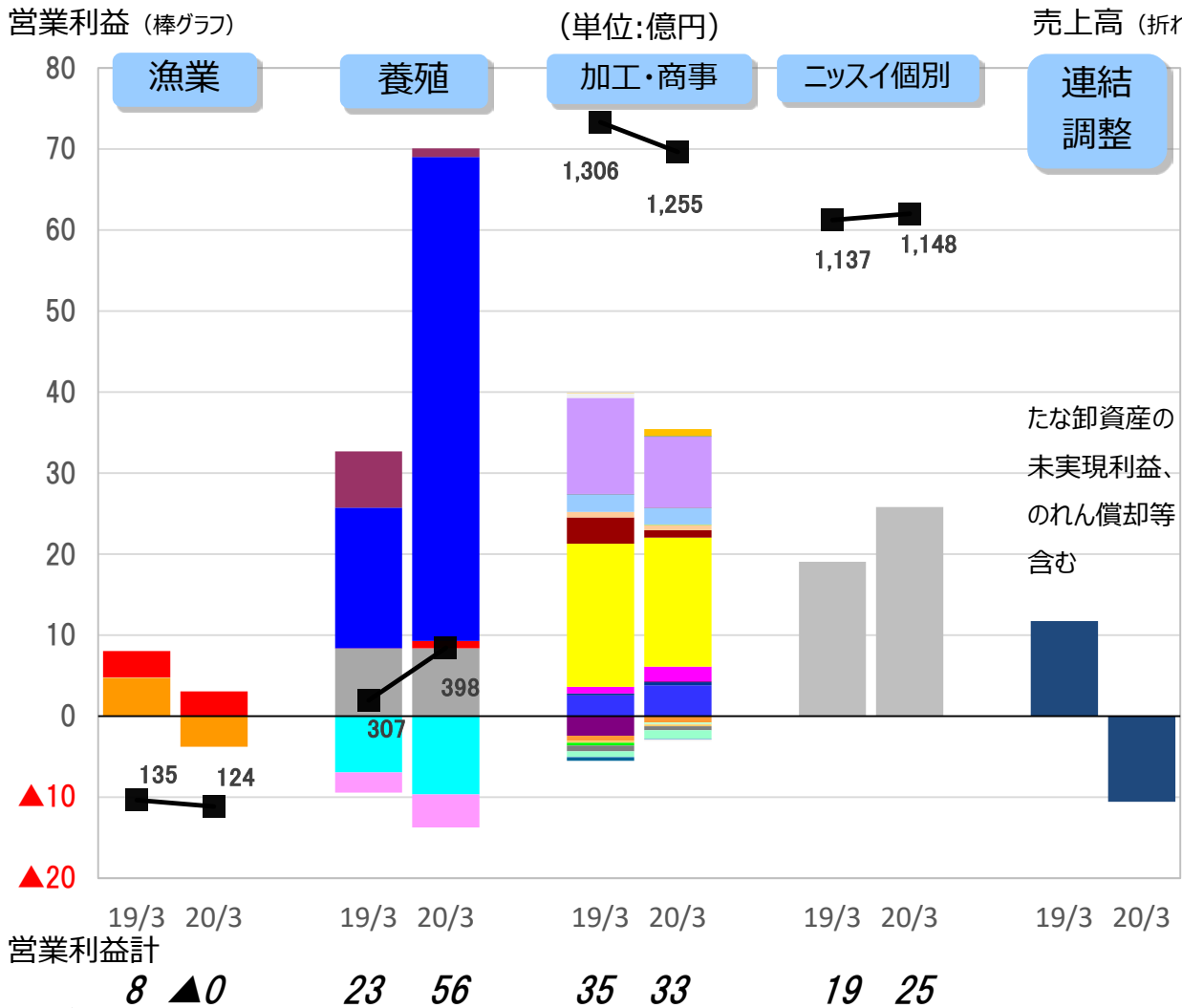
(単位：億円)



水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



国内漁業はさば・あじの漁獲が不調。国内養殖はぶりが好調も、まぐろ・鮭鱒が苦戦。国内販売は鮭鱒・ぶりの取扱増もあり増益。

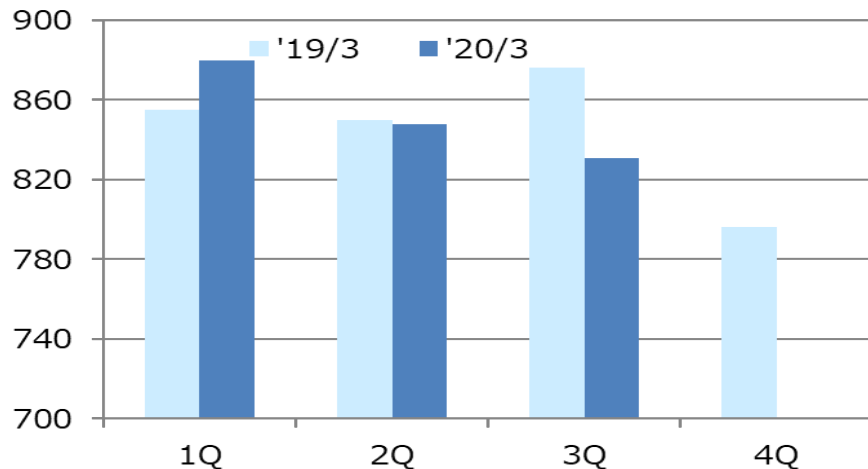


チルド事業は大幅減収も、国内外とも冷凍食品を中心に販売は好調。
利益はチルド事業の減益をカバーしきれず。

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	2,582	2,560	▲22	99.1
営業利益	103	98	▲5	95.1

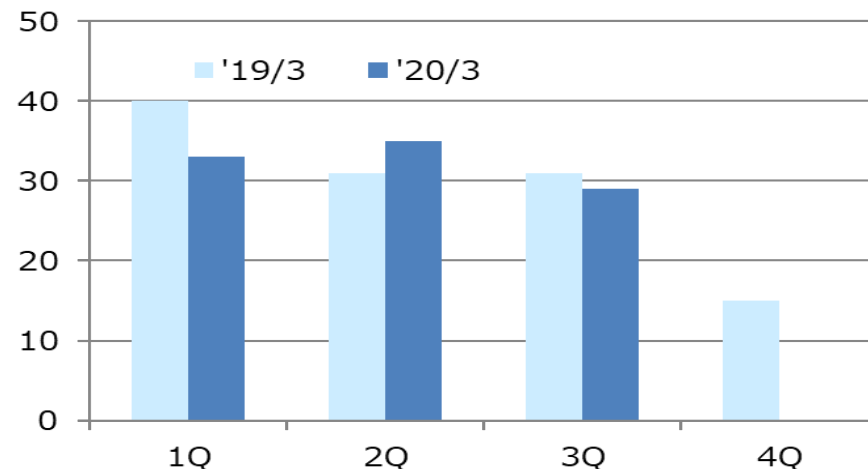
売上高 (四半期別)

(単位：億円)

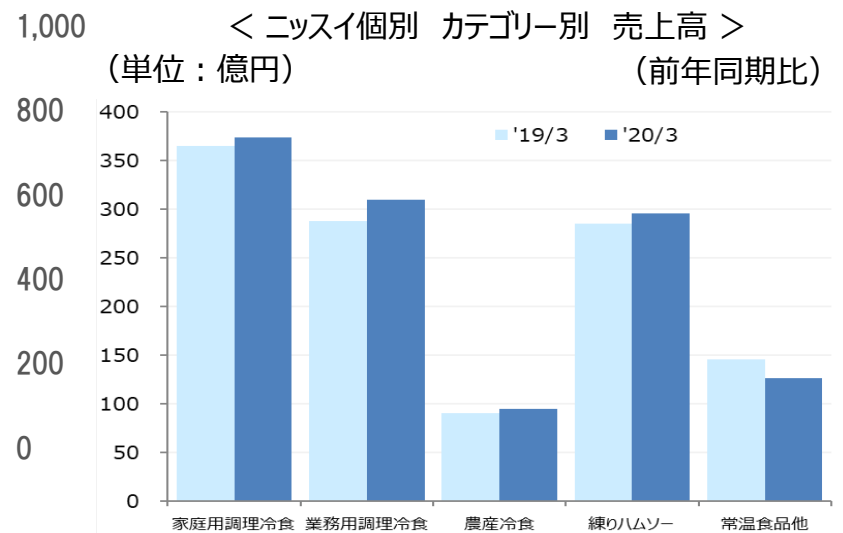
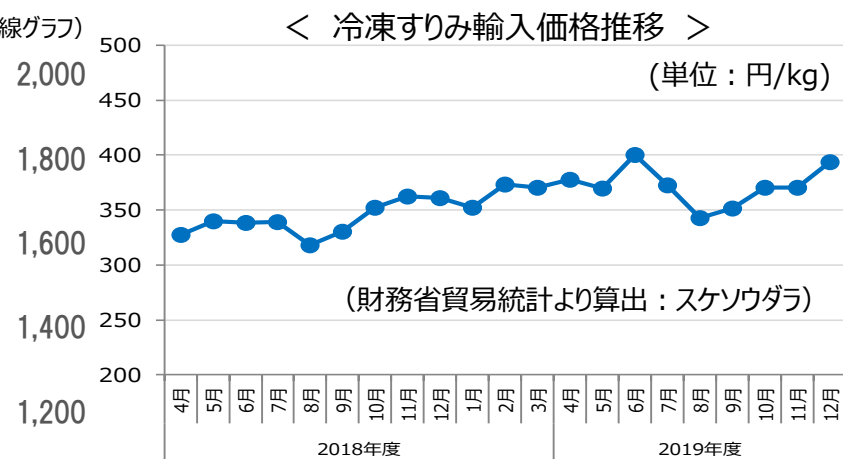
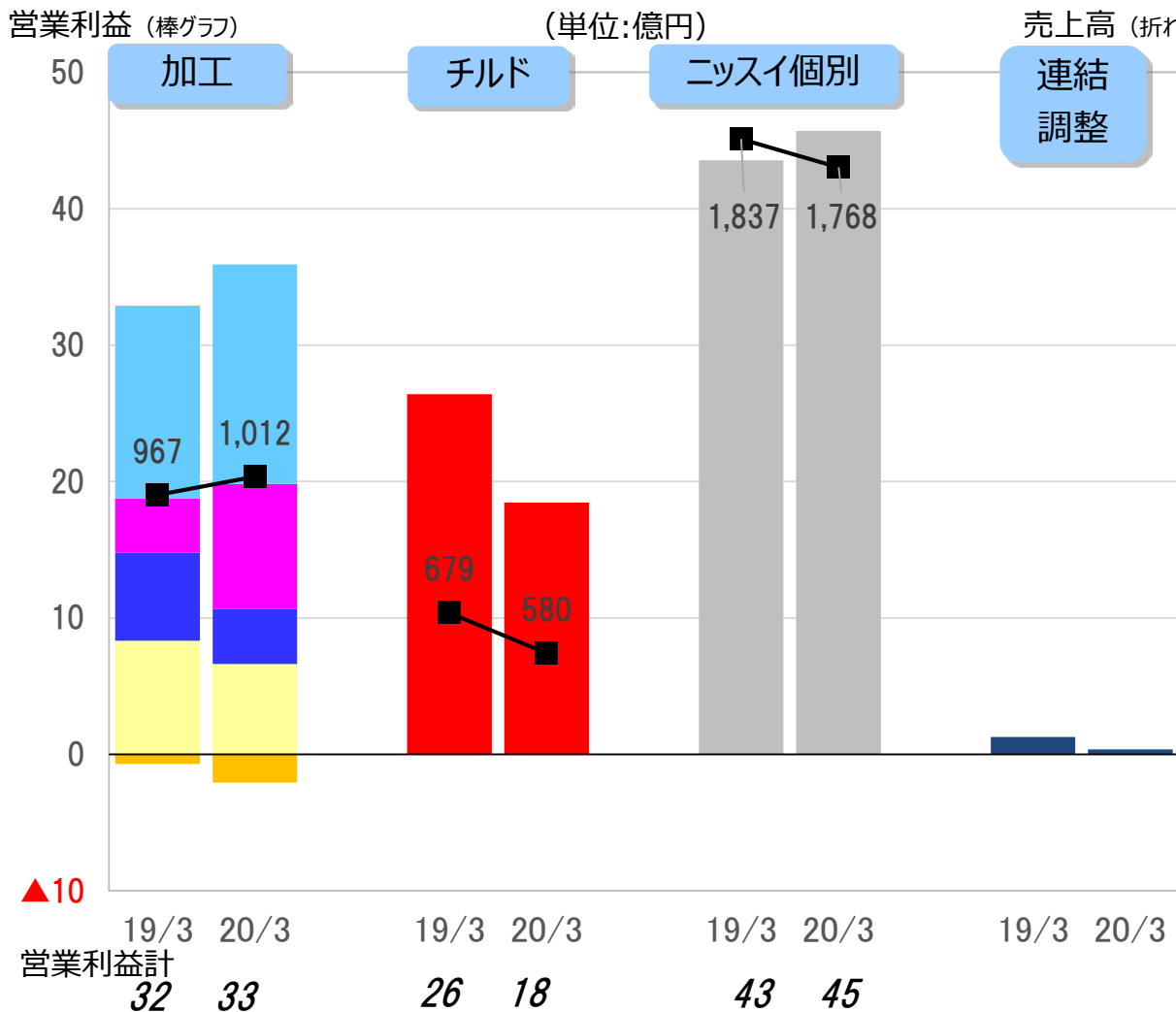


営業利益 (四半期別)

(単位：億円)



北米と日本は業務用冷凍食品の販売が好調に推移。欧州も原料コストUPの中、増益を確保。



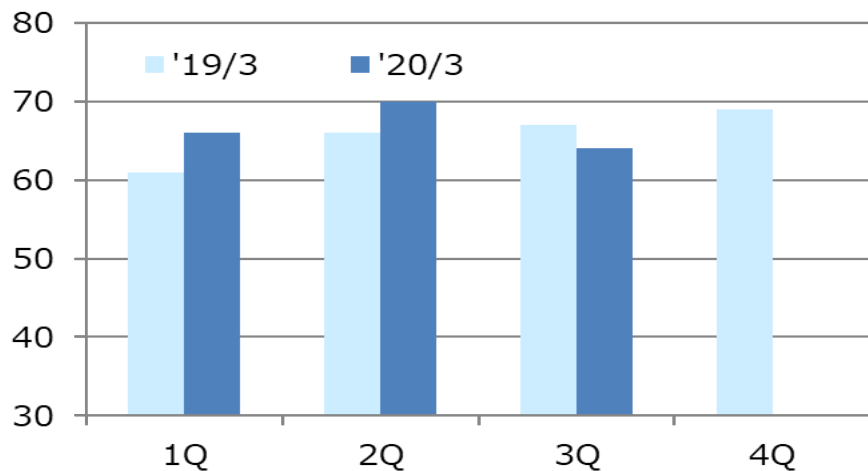
※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

機能性原料の販売は国内外とも順調に推移するも、グループ会社が減益となり全体では昨年並み。

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	195	201	5	103.0
営業利益	19	19	0	100.0

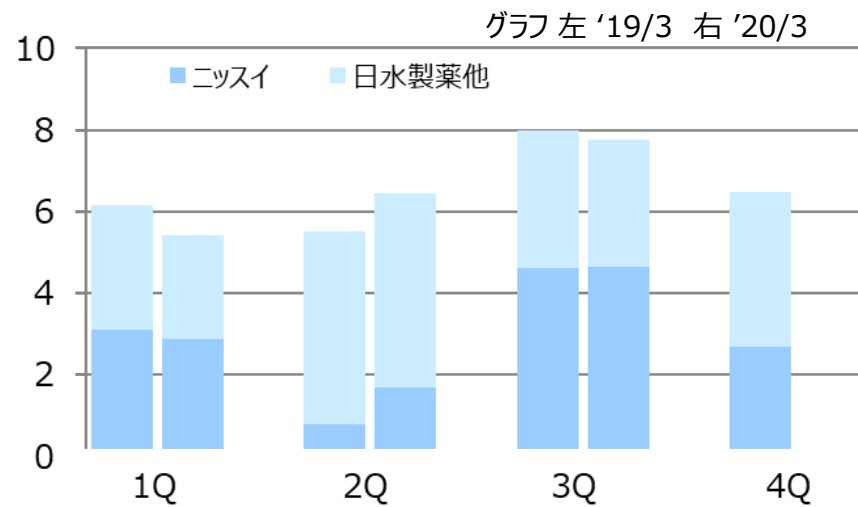
売上高 (四半期別)

(単位：億円)



営業利益 (四半期別)

(単位：億円)

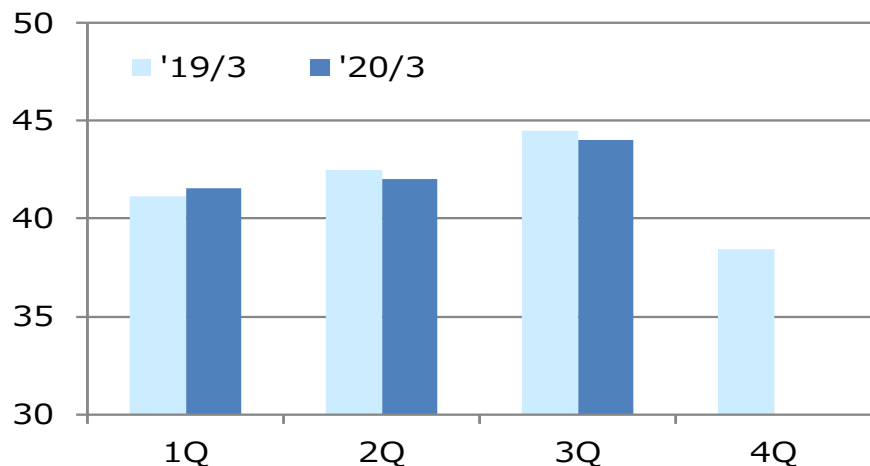


冷蔵倉庫事業・配送事業が順調に推移し、第1四半期の退職給付債務の算定方法変更の影響を概ねカバーし前年並み。

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	128	127	▲0	99.6
営業利益	16	15	▲0	95.7

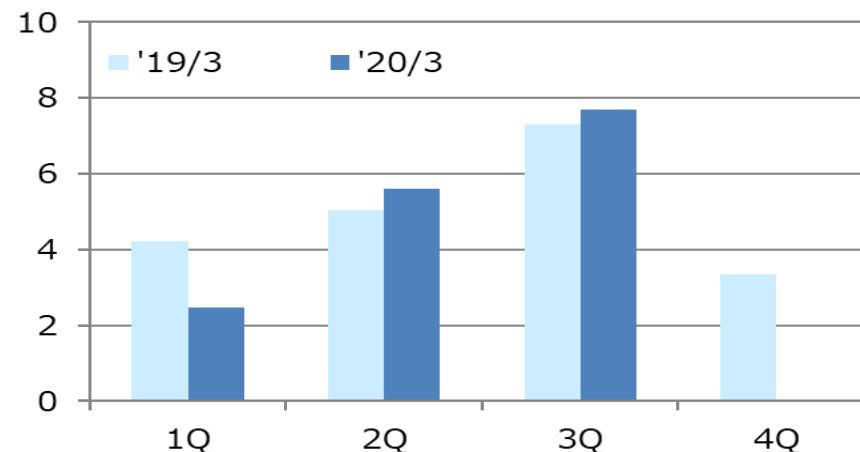
売上高 (四半期別)

(単位：億円)



営業利益 (四半期別)

(単位：億円)



エンジニアリング事業は大型案件の受注減が響き減収・減益

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	258	132	▲126	51.3
営業利益	8	1	▲7	11.8

主な増減要因について

エンジニアリング事業はグループの受注が中心となっているが、前期（2019年3月期）はグループ外の冷蔵倉庫建設等の大型受注があった。今期はその反動があり減収減益となった。

その他事業

【エンジニアリング事業】

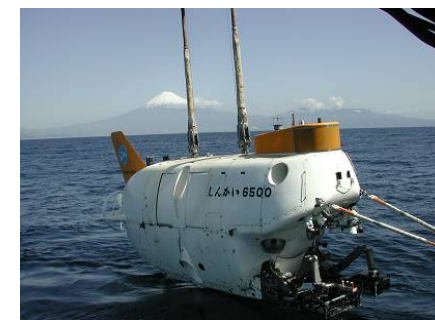
- プラント・設備機器の企画・設計・製作
- 建設に関する企画・設計・施工



日水物流舞洲物流センター

【海洋関連事業】

- 海洋・深海調査船や探査機などの運行・管理業務を受託
- 船舶の建造・修繕



日本海洋事業が運航受託している有人潜水船「しんかい6500」(JAMSTEC所有) 13

第3四半期までは年間計画に対し大きな乖離は無い。

計画達成に向け、海外展開を強化すると共に、国内養殖技術の向上、まぐろの原価高への対応を急ぐ。

新型コロナウイルスの影響や近海水産物の水揚げ・市況が不安材料。

	2020年3月期 3Q累計	2020年3月期 年間計画	年間計画-3Q累計
売上高	5,268 億円	7,000 億円	1,731 億円
営業利益	190 億円	240 億円	49 億円
経常利益	216 億円	265 億円	48 億円
四半期 純利益	147 億円	175 億円	27 億円

【養殖成績の安定化と事業規模拡大】

ぶり 周年供給に向けた取組

- 「多回採卵」による飼育期間の平準化
- 種苗センターの設備増強

更なる効率化

- 生簀大型化と自動給餌の組合せによる効率化
- 人工種苗比率アップによる効率化
(育成期間の短縮、水揚げ体重アップ)

さば 生食適性を向上し付加価値向上

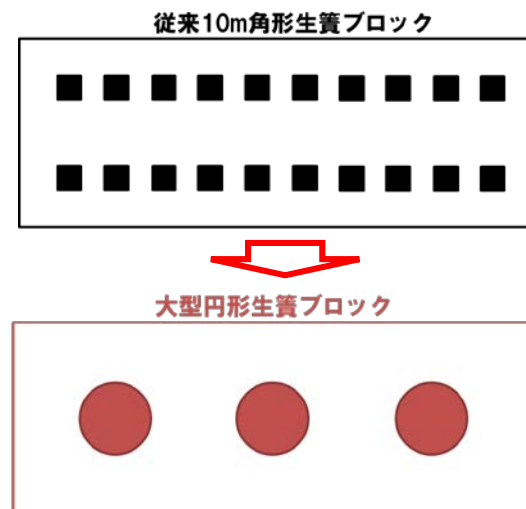
- 陸上循環式によりアニサキスフリーのマサバを養殖
⇒ 生食マーケット拡大

持続可能な水産物の安定供給

- 循環式陸上養殖の産業化による環境負荷低減
- 安定供給

親さばの成熟制御による年2回(春・秋)採卵

漁場の沖合化対応
生簀大型化による飼育効率向上



実証試験施設 2020年5月竣工式 (見込)
(鳥取県米子市淀江町)

【養殖成績の安定化と事業規模拡大】

- 鮭鱒 (国内)** **育種による差別化と安定化**
- 種苗の質の向上
自社での親魚養成、採卵・受精・孵化
 - 早期採卵、選抜育種による水揚げ
体重のアップ

- まぐろ** **まぐろ養殖事業の安定化・収益化**
- 赤潮・台風対策
足し網の導入、飼育期間の短縮
 - 養殖場の再配置
 - 産地加工拡大による付加価値向上



上浦裁割施設



【アジア】

- タイの冷食工場新設
クイックサービスレストラン・CVSマーケットへの展開を強化



アジア向け販売品



2020年5月竣工予定

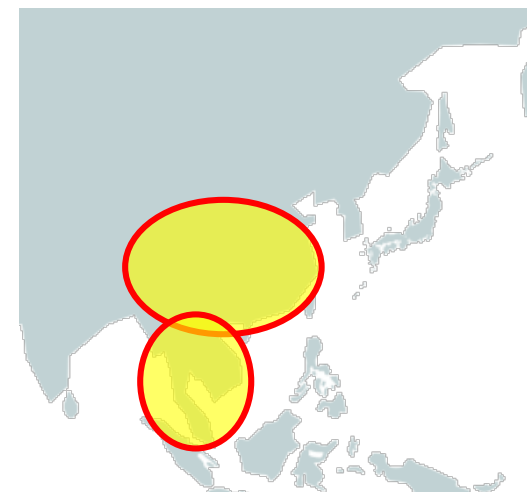
- 新たなマーケットへ進出
ベトナム、タイ、中国を候補エリアとし、パートナー企業とともに各国の文化習慣に対応しながら拡大



ベトナム向け
瓶詰商品



海外向け商品
パッケージの
裏面の一部



【欧州】

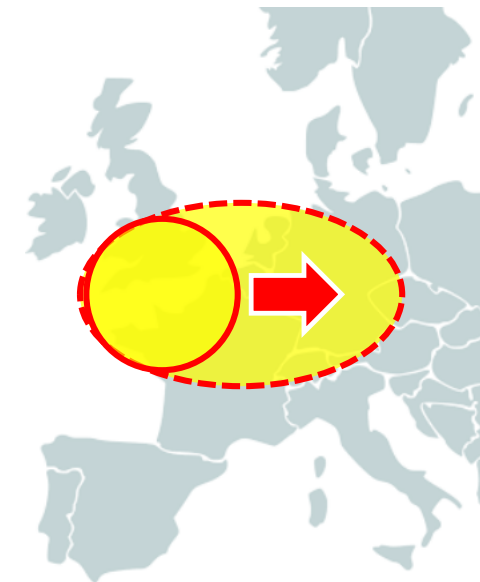
➤ 英国における機能再編
水産加工事業の統合による鮮魚一次加工ビジネスおよび
サプライチェーンの強化

flatfish 水産加工事業を統合
THE FUTURE OF FRESH OCEAN PRODUCTS



タラ ロイン
(骨・皮なし)

➤ 英国・フランスを基点としたエリア拡大
グループ加工拠点の活用と拡大により、畜肉・魚を使用しない
植物由来タンパク質食品とチルド水産フライの地理的拡大を図る



【高純度EPAの海外展開の準備】

販売

販売先との交渉は順調

生産体制

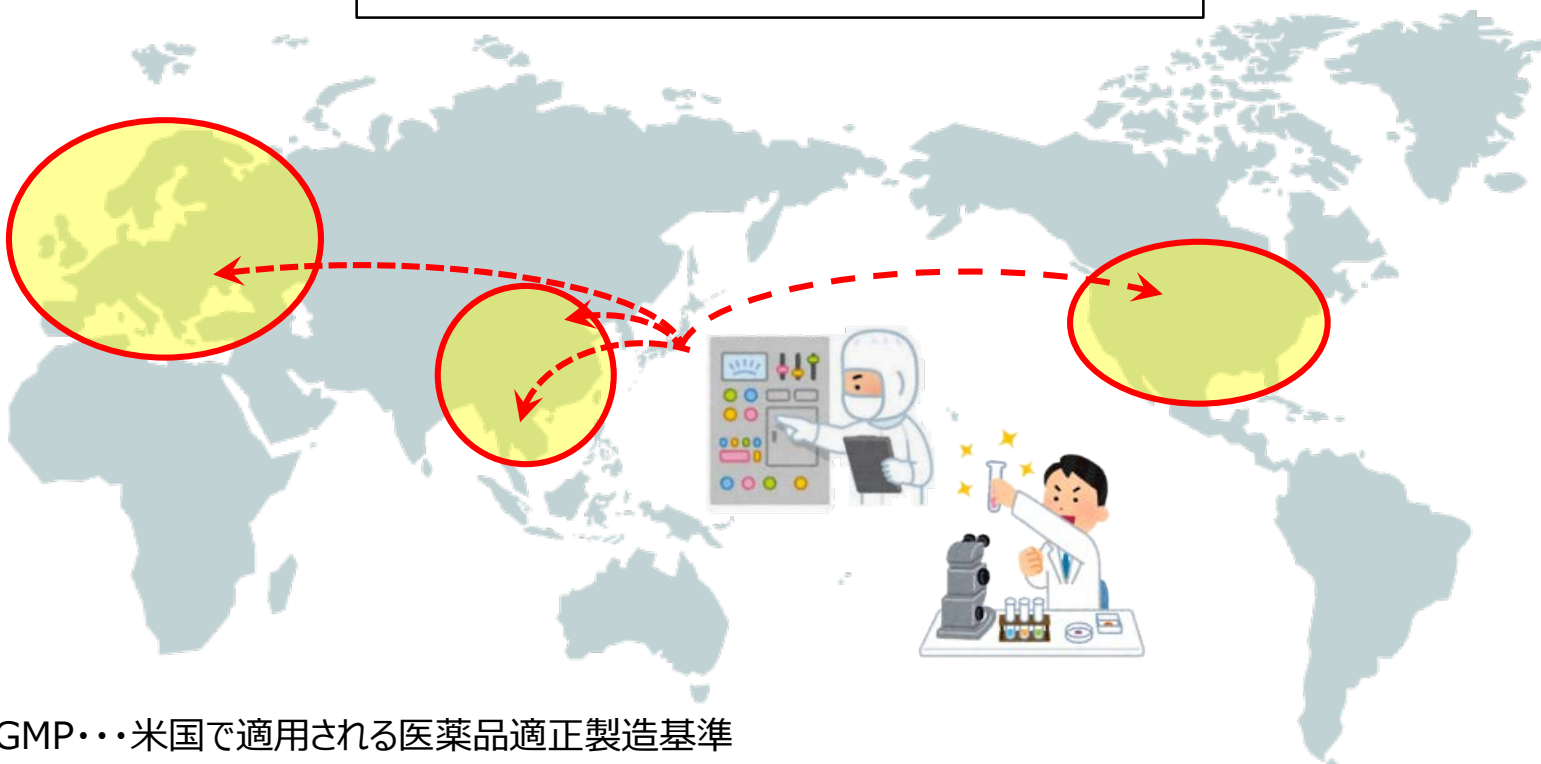
「cGMP(※1)」の認定取得を進める
製造設備での検証試験生産開始



【機能性原料 (EPA/DHA) の収益力強化】

原料アクセス力の強化
収益力の高いアイテムへシフト

世界的なEPA/DHAの需要増に対応



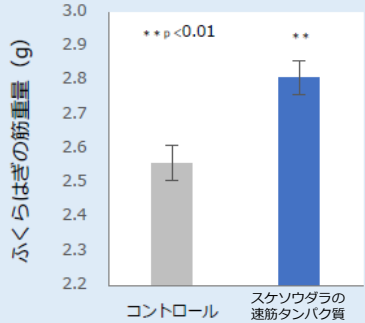
※1 cGMP・・・米国で適用される医薬品適正製造基準

スケソウダラの速筋タンパクの研究結果



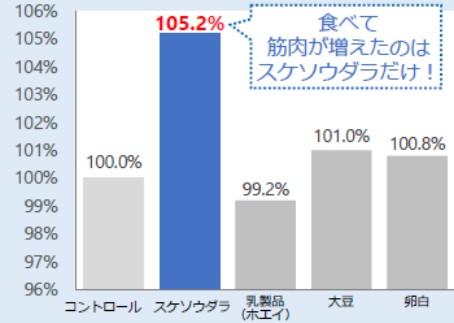
■ 食べて最も筋肉が増えたのはスケソウダラの速筋タンパク (ラット試験)

◇スケソウダラの速筋タンパク質を摂取したときのラットのふくらはぎの筋重量【図1】



出典：Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 2014

◇摂取タンパク質の違いによるラットのふくらはぎの筋重量(コントロールとの比率)【図2】



出典：農芸化学会中四国支部会 2015 報告

■ 増えた筋肉の種類は特に**速筋**！



—筋肉の色の変化(ふくらはぎ)【図3】



筋肉が速筋化!
(白くなっている)

出典：Biomedical Research 31(6)347-352, 2010

—速筋の量の変化(ふくらはぎ)【図4】

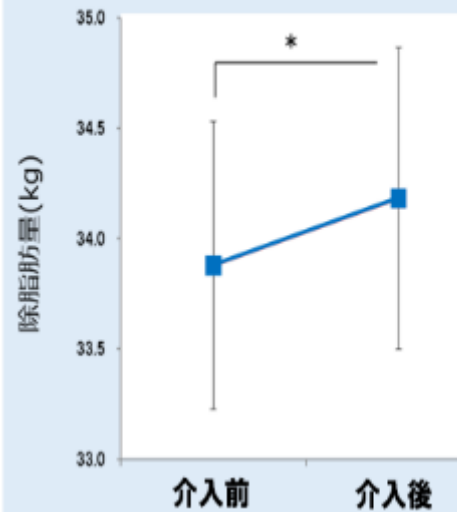


速筋線維が、非摂取のラットと比べて
1.4倍の太さに！

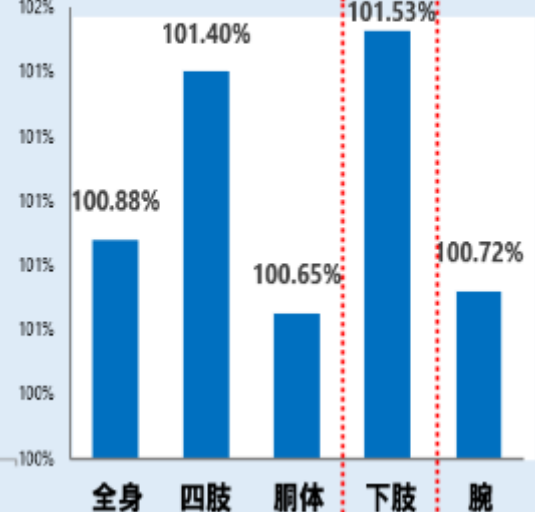
出典：Journal of Oleo Science
Copyright ©2019 by Japan Oil Chemists' Society
doi: 10.5650/jos.ess18193
J. Oleo Sci. 68, (2) 141-148 (2019)

■ ヒト(65歳以上のシニア)でも 3か月で**下肢の筋肉量が1.5%UP!** 1食あたり4.5gのスケソウダラの速筋タンパクを摂取

◇筋肉量(除脂肪量)の平均値【図5】



◇部位ごとの筋肉量(除脂肪量)増加率【図6】



<試験概要>

対象：65歳以上の女性19名

試験食品：スケソウダラミンチ (1日1回30g/タンパク質量4.5g)

試験期間：3か月 測定項目：DXA 法 (除脂肪量：筋肉量の指標)

【出典：アミノ酸学会 第11回学術集会 日本水産(株) 報告

「社会課題」×「お客様のニーズ」×「ニッスイの強み」



多様なライフスタイルに対応した、新たな価値と市場を創造

「お子様の健康」を後押し

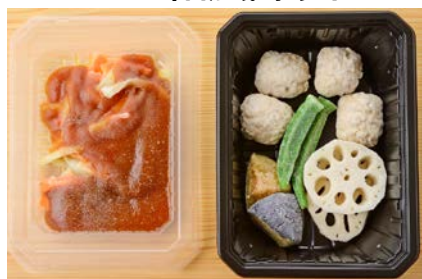


栄養成分と旨み成分が多い
金芽米を使用した
具入りおにぎり

「シニアの皆様」の食卓を支える簡便惣菜



電子レンジで簡単にできる
学校法人 服部学園
服部栄養専門学校監修
の和風キット



健康への配慮

「お魚」料理を身近に



おさかなミンチ（スケソウダラすりみ100%）
を使った麻婆豆腐
具材とソースがセットになったキット商品

※おさかなミンチは日本食糧新聞社
第33回新技術・食品開発賞を受賞

「毎日食べよう速筋タンパク」シリーズ

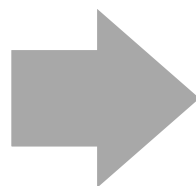
スケソウダラすりみ100%を使用
した商品をシリーズで展開



カバーを掛けて使うタイプの 発泡スチロール製フロートは撤廃・使用禁止



【発泡スチロール製フロート】
カバーを掛けて使うタイプは
カバーが破れると発泡スチロール
が欠けて流出するリスク



流出させない
(管理・回収)



**2025年までに撤廃
使用禁止**

Global Links

持続可能な水産資源から
世界の人々を健康に

大きな特別損益はない

(単位：億円)	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	増減	主な増減要因
売上高	5,432	5,268	▲ 164	} チルド事業の取引形態の変更影響 ▲73 ※営業利益への影響なし
売上総利益	1,094	1,027	▲ 67	
販売費・一般管理費	895	836	▲ 58	
営業利益	198	190	▲ 8	
営業外収益	43	40	▲ 2	為替差益▲5 持分法投資利益+1
営業外費用	14	14	0	
経常利益	228	216	▲ 11	
特別利益	5	2	▲ 2	固定資産売却益▲3
特別損失	3	5	1	投資有価証券評価損+ 1
税金等調整前四半期純利益	230	213	▲ 16	
法人税等	46	48	1	
法人税等調整額	24	12	▲ 11	SA棚卸資産未実現利益にかかる税効果調整▲5
四半期純利益	159	152	▲ 6	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	6	4	▲ 2	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	152	147	▲ 4	

円高（対ユーロ・デンマーククローネ）によるマイナス影響が拡大

主要在外会社の 為替換算レート	2019年3月期 第3四半期		2020年3月期 第3四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	815	893	942	1,029	126	136	139	▲3
EUR(百万ユーロ)	193	252	218	268	25	15	33	▲18
DKK(百万クローネ)	2,385	418	2,180	357	▲204	▲60	▲35	▲25
その他通貨	—	179	—	175	—	▲3	▲2	▲1
計		1,744		1,830		86	134	▲47

【参考：為替レート】

	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	変動率
米ドル (USD)	111.88円	107.67円	▲3.8%
ユーロ (EUR)	130.54円	118.95円	▲8.9%
デンマーククローネ (DKK)	17.51円	15.94円	▲9.0%

【参考】セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,890 (0)	370 (31)	214 (67)	56 (▲2)	393 (▲58)	2,926 (39)	▲680 (▲60)	2,245 (▲21)
	1,890	339	146	58	452	2,887	▲620	2,266
食品事業	2,614 (▲169)	444 (38)		55 (▲0)	291 (9)	3,404 (▲121)	▲844 (98)	2,560 (▲22)
	2,783	405		55	281	3,526	▲943	2,582
ファイン事業	220 (6)			3 (0)		223 (6)	▲21 (▲0)	201 (5)
	213			3		217	▲21	195
物流事業	249 (7)					249 (7)	▲121 (▲7)	127 (▲0)
	242					242	▲114	128
その他事業	173 (▲148)			1 (▲0)		175 (▲148)	▲42 (22)	132 (▲126)
	322			1		323	▲64	258
仮計	5,148 (▲303)	815 (70)	214 (67)	116 (▲2)	684 (▲49)	6,979 (▲217)		
	5,452	744	146	118	733	7,196		
連結調整	▲1,333 (134)	▲134 (▲21)	▲145 (▲56)	▲87 (▲5)	▲10 (1)		▲1,711 (52)	
	▲1,468	▲112	▲89	▲82	▲11		▲1,763	
連結計	3,815 (▲168)	681 (48)	69 (11)	28 (▲7)	674 (▲47)			5,268 (▲164)
	3,984	632	57	35	722			5,432

※上段は当期実績、下段は前期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※第1四半期連結会計期間より、組織編成の見直しに伴い、従来「食品事業」セグメントに分類していた連結子会社の一部のセグメント区分を、「食品事業」・「水産事業」の2区分に変更しており、遡及適用後の数値で前第3四半期連結累計期間と比較を行っている。

【参考】セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

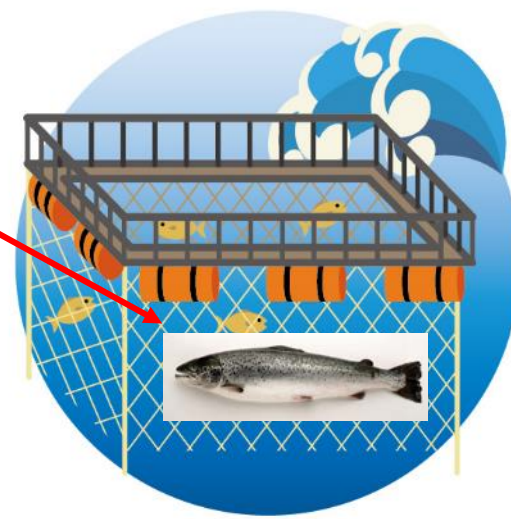
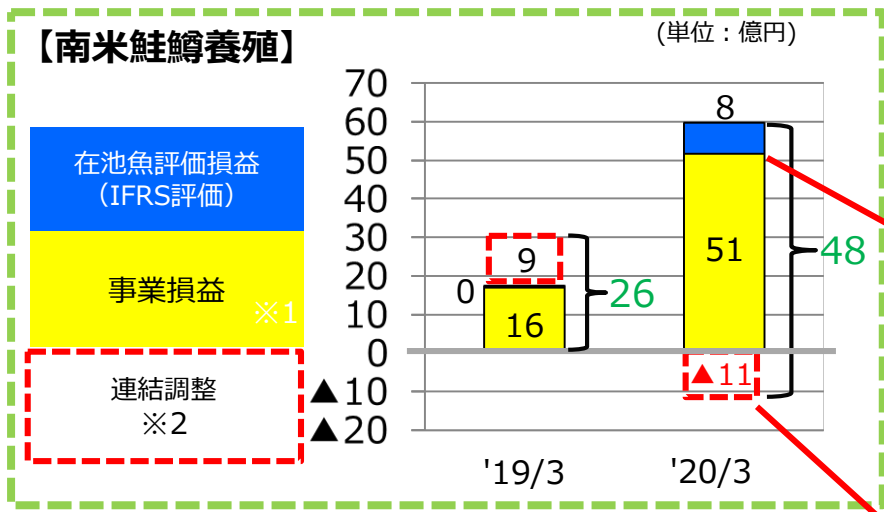
	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	24 (▲10)	19 (▲0)	62 (42)	0 (0)	8 (▲2)		115 (29)	▲10 (▲22)	104 (6)	4.7 (0.4)
	34	20	19	0	11		85	11	97	4.3
食品事業	65 (▲6)	13 (2)		5 (▲1)	14 (0)		98 (▲3)	▲0 (▲1)	98 (▲5)	3.8 (▲0.2)
	71	10		6	13		102	1	103	4.0
ファイン事業	18 (▲0)			0 (▲0)			19 (▲0)	0 (0)	19 (0)	9.7 (▲0.3)
	18			0			19	0	19	10.0
物流事業	15 (▲1)						15 (▲1)	0 (0)	15 (▲0)	12.4 (▲0.5)
	16						16	0	16	12.9
その他事業	0 (▲8)			0 (0)			0 (▲8)	0 (0)	1 (▲7)	0.8 (▲2.6)
	8			0			8	▲0	8	3.4
全社経費						▲49 (▲2)	▲49 (▲2)	0 (0)	▲48 (▲1)	
						▲47	▲47	0	▲46	
仮計	123 (▲26)	32 (2)	62 (42)	7 (▲0)	22 (▲2)	▲49 (▲2)	199 (13)			
	150	30	19	7	24	▲47	186			
連結調整	5 (3)	1 (▲1)	▲12 (▲20)	▲0 (▲0)	▲2 (▲1)	▲0 (▲0)		▲8 (▲21)		
	2	2	8	▲0	▲0	▲0		12		
連結計	129 (▲23)	34 (0)	49 (21)	6 (▲0)	20 (▲4)	▲49 (▲2)			190 (▲8)	3.6 (▲0.0)
	152	33	28	7	24	▲47			198	3.7

※上段は当期実績、下段は前期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

※第1四半期連結会計期間より、組織編成の見直しに伴い、従来「食品事業」セグメントに分類していた連結子会社の一部のセグメント区分を、「食品事業」・「水産事業」の2区分に変更しており、遡及適用後の数値で前第3四半期連結累計期間と比較を行っている。

【参考】南米鮭鱒養殖 在池魚評価・未実現利益について

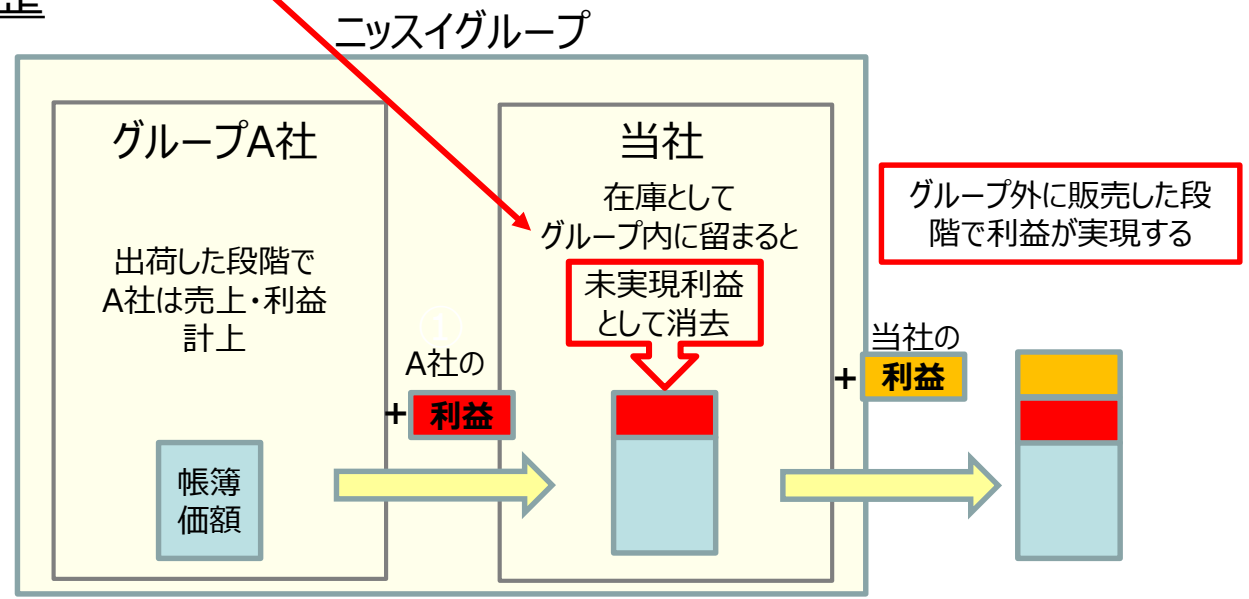


※1 在池魚評価損益

国際財務報告基準 (IFRS)に基づき、**一定の魚体重に達した養殖中の魚 (在池魚) について出荷想定価格による評価を実施**

※2 在庫に含まれる未実現利益の調整

グループ内の在庫に含まれている利益を消去する決算調整



見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2020年2月5日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7057

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

